

August 9, 2026

信仰の平安

マルコ 5:25-34

5:25 そこに、十二年の間、長血をわずらっている女の人があった。

5:26 彼女は多くの医者からひどい目にあわされて、持っている物をすべて使い果たしたが、何のかいもなく、むしろもっと悪くなっていた。

5:27 彼女はイエスのことを聞き、群衆とともにやって来て、うしろからイエスの衣に触れた。

5:28 「あの方の衣にでも触れれば、私は救われる」と思っていたからである。

5:29 すると、すぐに血の源が乾いて、病気が癒やされたことをからだに感じた。

5:30 イエスも、自分のうちから力が出て行ったことにすぐ気がつき、群衆の中で振り向いて言われた。「だれがわたしの衣にさわったのですか。」

5:31 すると弟子たちはイエスに言った。「ご覧のとおり、群衆があなたに押し迫っています。それでも『だれがわたしにさわったのか』とおっしゃるのですか。」

5:32 しかし、イエスは周囲を見回して、だれがさわったのかを知ろうとされた。

5:33 彼女は自分の身に起こったことを知り、恐れおののきながら進み出て、イエスの前にひれ伏し、真実をすべて話した。

5:34 イエスは彼女に言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。」

イエスは会堂司ヤイロの娘の病気を癒やすためヤイロの家に向かって急いでおられました。大勢の人がイエスのあととついていきました。その中に一人の女性がいました。彼女は、12年もの間、病気に苦しんでいました。医者に診てもらいましたが、少しも良くならず、かえって悪くなるばかりでした。医者のために持っていた財産を使い果たしてしまいました。彼女は、イ

エスの衣にでも触れば、自分の病気が治るのではないかと思ひ、大勢の人々がイエスを取り囲んでいるのを幸いに、その群衆に紛れ込んでイエスの衣に触ったのです。すると、たちまち病気が治り、自分でも癒されたことが感じられるほどでした。

しかし、この女性が癒やしの力を受けたのを感じたのと同じように、イエスもご自分から癒やしの力が出ていったのを感じていました。イエスは足を停め、人々を見回し、「だれがわたしの衣にさわったのか」と言われました。彼女は隠れていることができず、イエスの前にひれ伏して、ことの次第をすべて打ち明けました。すると、イエスは彼女に言われました。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。」

一、イエスのあわれみ

私はイエスのこの言葉にいつも感動します。この言葉にはイエスの大きな愛と深いあわれみが込められているからです。第一に、イエスはこの人を女性だからといって軽く見ることはなさいませんでした。アメリカで女性に投票権が与えられたのは1920年のことで、憲法修正第19条が成立してからでした。アメリカでさえ、百年前には女性の権利が制限されていたのですから、紀元一世紀のユダヤの社会ではなおのことでした。会堂では女性は男性と同じ席に座れませんでしたし、神殿で女性が立ち入ることができるのは「婦人の庭」という限られた場所だけでした。しかし、イエスのあわれみにそんな制限はありません。イエスは救いを求める者を男女を問わず受け入れ、その求めにお応えになりました。

またイエスは、その人がどんな境遇、どんな状態であっても

等しく扱われました。当時、病気は特別な罪の結果であり、からだに差し障りのある人は神から見捨てられているなどと考えられていましたが、イエスは病気や障がいのある人にあわれみを示されました。今でも、病気の人への偏見がありますが、悪いことをする人はたいてい頭が良くて、からだも丈夫な人です。病気の人が罪深いというわけではありません。私が子どものころ「健全なからだに健全なたましいが宿る」と教えられました。大人になって、それが古代ローマの詩人ユウナリス（60-128 年）の言葉で、もともとは「健全なからだに健全なたましいが宿れば理想だが実際はそうではない。だから、そうなるように願え」といった意味であることを知りました。からだの健康は誰もが願うものですが、たましいの健康に気をかける人は少ないものです。「健全なからだに健全なたましい……」とはたましいの健康をないがしろにすることを戒めた言葉でした。

たとえ人々が病気や障がいのある人を責めたり退けたりしても、イエスは決してそうされませんでした。この女性は 12 年間病気に苦しめられていました。12 年といえば、子どもが学校に入って卒業するまでの期間です。過ぎ去ってみればあっという間かもしれませんが、病気を抱えての 12 年はどんなに長くつらいものだったことでしょう。イエスは彼女が衣に触れたとき、彼女の痛みや苦しみを即座に感じとられ、それをご自分の痛みとされ、あわれみの心を動かされたのです。イエスの深いあわれみが彼女を癒やしました。イエスは苦しむ者を心にかけて、救ってくださるあわれみ深い救い主です。

二、イエスへの信仰

第二に、イエスは私たちの信仰がどんなに小さいものであつ

ても、それを受け入れてくださいます。この女性がイエスの前に出で自分がしたことの一部始終を人々の前で打ち明けたとき、イエスは彼女に、「娘よ、あなたの信仰があなたを救った」と言われました。

「娘よ」というのはアブラハムの子孫という意味です。ユダヤ人はアブラハムの子孫であることを誇りにしていました。しかし、ほんとうの「アブラハムの子孫」はアブラハムの血筋につながっているだけのものではありません。アブラハムは、見えるものによってでなく、ただ神の約束の言葉を信じて「信仰の父」となりました。そのアブラハムの信仰を受け継ぐ人が「アブラハムの子」であり「娘」なのです。イエスはこの女性の信仰をアブラハムが持った信仰のようだと言ってほめられたのです。けれども、彼女は群衆に紛れ、癒やしの力を盗みとるようなことをしました。ほんとうなら、きちんとイエスにお願いすべきだったでしょう。しかし、イエスは、彼女のしたことを責めず、彼女の信仰を受け入れ、それをさらに正しい信仰へと高めてくださったのです。

イエスが彼女を人々の前に引っ張り出されたのは、決して彼女に恥ずかしい思いをさせるためではありませんでした。もし彼女が誰にも知られずそこから立ち去っていたら、その信仰は迷信的なものになったかもしれません。「どうやって癒やされたのだ」と人から訊かれてもそれに答えることができず、癒やしを証明するものが何もないままで終わったことでしょう。イエスは、「あなたの信仰があなたを救った」と言われることによって、彼女に人を救うのはイエスを信じる信仰によること、その信仰によって彼女は癒やされたと宣言されたのです。

私たちが神を求め始めた動機は様々ですが、たいいていは、悩

みや苦しみがあって、そこからの救いを願ってのことでしょう。そうしたことは「苦しいときの神頼み」といって、まことの神を信じない人々の間でさえ、利己的で純粹ではないものとされています。しかし、聖書にはこうあります。「苦難の日に／わたしを呼び求めよ。／わたしはあなたを助け出し／あなたはわたしをあがめる。」（詩篇 50:15）神は「苦しいときの神頼み」を許しておられるのです。「わたしはあなたを助け出し／あなたはわたしをあがめる」とあるように、神は、その人に、その後も神に頼り続ける歩み、また、神の救いのゆえに神をあがめる礼拝へと導いてくださるのです。利己的な願いから出発しても、神はそこからより純粹な信頼へと私たちを導いてくださいます。そして、私たちはこう祈ることができるようになるのです。「苦難の日に 私はあなたを呼び求めます。／あなたが私に答えてくださるからです。」（詩篇 86:7）主は答えてくださる。そう信じて祈るのです。

三、イエスの平安

第三に、イエスは彼女に「平安」を与えられました。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。」この「安心して行きなさい」というのは英語では “Go in peace!” です。一般には人を送り出すときに使われる別れの挨拶です。しかし、ここには、挨拶の言葉以上の大切な意味が含まれています。

まず、“Go in peace!” にはには、神のもとに立ち返りなさいという意味があります。イエスがある町で、パリサイ人のシモンという人の食卓についておられたとき、その町で「罪深い女」と呼ばれていた一人の女性が来てイエスの足に香油を注ぎ

ました。パリサイ人シモンはイエスが彼女のするがままにさせているのを見て、心の中でイエスを軽蔑し非難しました。けれどもイエスは彼女に「あなたの罪は赦されています。……あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい」（ルカ 7:48-50）と言われました。イエスは、罪の赦しによって与えられる神との「平和」、神からの「平安」を私たちのために勝ち取り、それを与えてくださいます。その平安によって、私たちは安心して神のもとに向かうことができるのです。

また、“Go in peace!”には家族やコミュニティに帰るという意味があります。12年の間病気だった女性は、その病気のために他の人と同じようには行動できませんでしたから、おそらく家族、親族、また地域の人々と関わることもない引きこもった生活をしてきたことでしょう。あるいは医者を探し求めて他の国に行っていたかもしれません。彼女にとって12年間は平安のない日々でした。イエスは彼女を癒やし、彼女を家族のもとに返し、病気になる以前の平穏な生活に戻されたのです。

さらに、“Go in peace!”には、証しの場所に遣わされるという意味があります。イエスは弟子たちに「ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい」（マタイ 28:19-20）と命じられました。すべての人が宣教師、牧師、また伝道者になるよう命じられているわけではありません。しかし、すべてのクリスチャンはそれぞれ自分の生活の場でキリストを証しするよう召されています。12年間病気だった彼女は、自分の町に、また、家族のもとに帰りました。その彼女は以前の彼女ではありませんでした。イエスに出会い、その

恵みを受けた彼女は、周りの人々にイエスを証しせずにはおれなかったことでしょう。

イエスは “Go in peace!” と言われ、彼女を送り出されました。しかし彼女を一人で返されたわけではありません。「あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい」との命令に続いて「見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます」との約束があります。イエスは「平安」とともに彼女を送り出され、平安」そのものであるイエスがともにいてくださったのです。

信じる者にはイエスがくださる平安があります。平安の主が共にいてくださいます。私たちも、イエスから “Go in peace!” との言葉を聞き、イエスとともに、ここから進み出たいと思います。

（祈り）

父なる神さま、きょうも、主イエスのあわれみに満ちたお心を知り、恵みの御言葉を聞くことができ感謝いたします。主イエスを知れば知るほど、私たちの信仰はより確かなものとなります。恵みによって強くされて日々を送ることができます。

「平安のうちに行きなさい。」この言葉に送り出されてここから出ていきます。主イエスが共にいてくださることを覚えて、この週を「平安」のうちに歩む私たちとしてください。イエス・キリストのお名前です。